

# 平成31年 第1回定例会

## いっぱんしつもん

3月12日に、8名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

### 住民の声を町行政に

#### 定住促進事業の今後の進展は



渡会 寿男 議員

渡会議員 妹背牛町の定住人口の確保と子育て環境の充実を図るための助成事業である定住等促進事業について伺う。本町でも土地購入、住宅新築、結婚から出産、子育て等に助成しているが、助成方法のほとんどが商品券対応となっている。特に土地購入、住宅新築、中古住宅購入の支援は、将来にわたって本町に住んでもらえることが確実で、取得に対する資金の応援として考えるべきである。若い世代に住んでほしいと願うならば、事業の趣旨からもストレートに現金を助成し、負担を軽くすることが最善と考えるが、

町の見解を伺う。また、若い世代を呼び込む、新生活に対する支援策が不足していると感じているが、引越し費用の助成や町外に働きに行く人への通勤助成、現在の住宅新築の支援額の拡充、住宅購入にかかわる固定資産税の減額など、手厚い支援策を打ち出すことが必要と思う。今後どのように展開し、実施していくのか伺う。



企画振興課長 助成方法については商品券の利用期限が半年と短いので使いにくい、現金支給にしてほしいなど、まちづくりアンケートや保護者から意見をもらっている。高額の助成については、3年間の分割支給など工夫はしている。今後も商工振興のため商品券活用の継続を考えているが、その金額に基準を設けるなど、現金と商品券の併用助成も検討したい。また、前回

#### 町民を「孤独死」させないために

の国勢調査では、他町から本町への通勤者は、474人、逆に本町から他町への通勤者が383人であった。現状では、妹背牛町に住みたたくても住むところがないという喫緊の課題があり、民間賃貸住宅建設に対する助成など、受け皿、住むところを整備しつつ、移住、定住及び子育て支援に関しては現行制度の強化もしくは見直しを行い、さらには引越し費用の助成、町外勤務者への通勤費助成、また新たな支援策も検討が必要と考えている。



工藤 正博 議員

工藤議員 質問の1つは、新聞やテレビの報道などで孤独死が伝えられているが、この妹背牛町でも決して避けるこ

とのできない問題で、わかっ  
ていてもなかなか取り組めな  
いこの孤独死対策の問題であ  
る。町政懇談会だけが町民の  
声を聞く場ではない。町内活  
動にももっと支援する必要が  
あり、絶対に孤独死させない  
という強い意識が求められて  
いる。重症になっては経済的  
問題が大きくなり、早いうち  
に手を打つ必要がある。それ

が、多くの高齢者であり、ひとり暮らしの人ではないか。また、多く残されている地域のつながり、医療機関と行政との連携に、もっと工夫できることがあるのではないかと

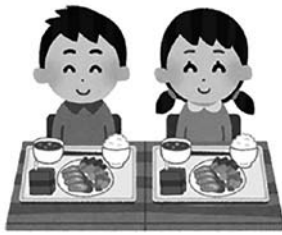
もっと早くに気がついていたらと後悔することのないように取り組む必要がある。行政の総合力が試されており、少しでも有効な手だてを考える必要がある。その考えを伺いたい。

**健康福祉課長** 町内会や関係機関、民生委員等の情報を常にキャッチして、地域とのつながりの中で、特にひとり暮らしの高齢者等を支援していく仕組みを構築し、孤独死といった事態を防止していくことは、行政はもちろんだが、隣近所、町内会、地域のつながりが必要であると認識している。家族を含め関係者が後悔しないように、この妹背牛に合った現在ある支援体制の強化と同時に、支援が必要な人を改めて精査し支援する、また支援される側もお互いに助けて、助けるよと言えるような、いわゆる受援力のある妹

背牛を目指して、住民啓発と地域福祉実践を積み重ねていくしかない。

## 学校給食費の改定と助成額の見直しは

**工藤議員** 小中学校の給食費だが、給食費の改定について聞いたのは1月10日であった。小麦や乳製品の高騰、相次ぐ自然災害に伴う野菜価格の高騰などがあり、今後、質の高い給食を確保していくためには、現在の給食費では対応が困難であることから、この4月から値上げすることになった。①給食費の現状と値上げ額は。②値上げへの反応や意見はあったのか。③値上げ分も含めて半額助成に変わりはしないとの理解で良いのか。



**教育課長** ①現状の給食費については、平成27年度に制定されたもので、1食単価、小学校低学年で221円、中学年で228円、高学年で237円、中学生で272円となっている。平成19年から平成26年までは、小学校で242円、中学校で298円という単価なので、給食センターが稼働した際には給食費が下がっている。値上げ額は小学校低学年で20円増額の241円、中学年で16円増の244円、高学年では11円増の248円、また中学生は32円増の300円となる。②保護者に文書通知をした折に、意見、質問等がある場合には学校あるいは教育委員会に意見、要望等を寄せてほしいと通知したが、昨日現在この給食費増額に対する問い合わせ、意見等は一件もない。③助成額は申請を行う年度分として納めた給食費の2分の1と規定している

ので、当然値上げ分についても半額助成となる。

## 定住促進賃貸住宅建設事業の概要と審査等



石井 喜久男 議員

**石井議員** 定住促進賃貸住宅建設事業における交付要綱等について伺う。①来年度事業として実施予定の定住促進賃貸住宅建設事業補助金交付要領で、補助金額は予算内において補助対象経費の2分の1以内とし、その上限額は1LDK、1戸当たり250万円、2LDK以上、1戸当たり300万円となっているが、補助対象経費とは何を指すのか。②事業申請者が数件ある場合、どのように審査し、適当と認めるのか伺う。③事業申請者の審査結果は、審査の透明性を図るために内容を公表すべきであると思うが、対応を伺う。

**企画振興課長** ①賃貸住宅を新築する際の建築工費を補助金の交付対象としており、具体的には本体工費、付帯工費、機械機器費、外構工費、土地造成費、測量及び試験費、設計監理費等である。②事業計画審査要領を制定し、申請者から事業計画認定申請書を受理した際、副町長、教育長以下課長職4名をもって組織する事業計画審査会を設置、申請のあった事業計画の内容、具体的には事業コンセプトや住宅の快適性、経済性、事業収支計画等について、審査及び評価を行い、認定の可否を決定する。その審査については、評価点方式で行い、合計点の高いものから募集数の範囲内で認定する。③募集の状況や認定結果はホームページで公表する予定である。また、審査に係る結果は、申請を行った申請者本人から申し出があった場合のみ開示する。

## 今後の妹背牛温泉へ。ペル

**石井議員** ①寒くなると歩くのも苦痛だが、温泉に入り温まると楽になる。毎日温泉に行きたいが、交通費がタクシ

ーで往復1,200円程かかる。食堂を利用するとタクシー料金の補助はあるが、毎日行けないので、冬季だけでもどうにかならないかという町民の話を聞く。町民の健康のため交通費補助など対策が必要と考えるがいかがか。②温泉ペペルの半年券3万円を2万5,000円に下げる公約について、平成31年の町政懇談会で町長から「ペペルは30周年を4年後に控えており、大規模改修をはじめ、今後、維持修繕費が増大するため、この公約は残念ながら断念する」と報告があった。温泉は老朽化が進んでおり、町長は公社は利益計上ができないと答弁しているが、公社として改修費の積立はできないのか。③毎年、改修工事費、備品購入費等を町から支出しているが、公社から支出できないのか。④今後、温泉の改修工事

はどのように計画、実施するのか。



▲妹背牛温泉ペペル

**企画振興課長** ①タクシー利用助成を検討しているが、商工会事業や福祉事業と内容が一部重複の部分があり、その調整や委託先との協議等も必要である。今後、関係機関等と時間をかけ、協議検討を重ねて実施したい。③温泉施設は町の財産、経営を指定管理者が行っており、基本的には工事費は町が支出するが、20万未満の軽微な修繕に関しては、公社が直接行うこととしている。また、備品購入費は、臨時的なものを除き、公社作

成の計画に基づき、町が購入、更新をしている。④第9次総合振興計画に合わせ10年間の施設維持補修計画を作成、これに基づき実施するが、令和5年1月にオープン30周年の節目を迎えるので、そこで大規模改修を行い、集客につなげたい。

**副町長** ②積立はできるが、今の公社の繰り越し利益剰余金額からは積立に至るところがマイナスで、町から運営助成をしている。ただ、返礼品贈呈事業の受託で、公社全体としての収支は年々改善されている。公社として、建物の修繕等の積立が理想で、そうなるよう今後も努めたい。



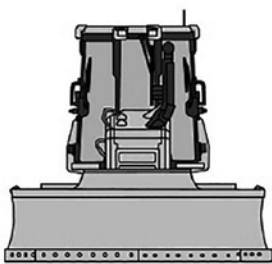
## 町道除排雪業務における今後の考え方は



赤藤 敏仁 議員

**赤藤議員** ①温暖化の影響で状況は変化している。積雪状況や温度状況も考慮し、より柔軟な対応が必要と考えるが、除雪の仕方、時間、状況、暦イベント状況などを踏まえ、毎年同様に行うのではなく、少し考えていかなければならないと思う。町の考えを伺いたい。②苦情の関係だが、町民は町に対して苦情を言いにくい。一方、民間業者にはいろいろな相談があり、今年の出動状況の中で降雪量が少ない、5センチ以下で出動した回数が結構あった。道路整正の目的で道路拡幅をしているのも目立ち、何のための除雪なのか。少しは地先のことも考え、再三、願っていた北2条のグレーダーの朝の使用はやめてほしい。一時停止で途

切れ途切れの道路を路線内に削った雪をおさめるために行ったり来たり、北側と南側の雪の量が全然違う、ほかの除雪機は終了し、給油している。遅い時間になると8時を超え、通勤、通学時間になっている。町民だけでなく、業者も危険なため、時間調整と北2条のグレーダーでの除雪をやめることを強く願う。③北3条道路はコンビニ利用者が徒歩や自動車で買い物に来ている。通行利用状況を踏まえ、こまめな除排雪を考えてほしい。





▲除排雪作業

## 屋根雪おろしと人材不足

**建設課長** ①交差点の見通しが悪く危険という苦情があることから、定期の一斉排雪とは別に積雪状況を見ながら、部分排雪をしていきたい。②比較的雪が少なく堆積スペースがあればグレーダーは走れるが、狭くなってきた場合は無理なこともある。これも今後の課題なので、委託業者と協議して、効率的な機械の運用をしていきたい。③道路の狭いところは、今年も雪が高くなり幅員が確保できなかつたが、即座に部分排雪という形で対応した。今後も部分的に交通安全上支障がある場合は対応したい。

**赤藤議員** 屋根雪おろしの人材不足は、今後、問題になってくる。安全対策はもとより、若手育成に民間事業者も頑張っているが、全体数が不足している。最近、特に多いのが通学通路の雪庇処理で、屋根からの転落、窓からの転落、落雪事故など、重大事故、死亡事故に直結している。屋根の雪対策、雪どめ施工への助成、人材育成への助成、また、農業の人材不足と連携し臨時職員等で対応するなど、町の考えを伺いたい。

**建設課長** 行政として、できることは限られており、現段階では個人の建物に対して行政が入って作業することは難しい。町民から問い合わせ等があれば紹介する程度と考えるが、業者間の体制づくりについて建設業協会などと協力し連携することで、人材不足に対する改善を図ってもらいたい。

## 「定住促進」両輪での政策推進が重要



渡辺 倫代 議員

単身者のもとより、子育て世代、若者世代に特化して対象を絞って明確な事業の意味が効果的に表れるように家賃助成事業を検討し、いずれ、ということではなく両輪での政策を進めることが重要であると考えがいかがか。



**渡辺議員** 31年度は新たに定住促進賃貸住宅建設事業として、賃貸住宅を建設する事業者、法人と個人に対して建設費用の一部を助成することが予算計上されているが、この建設費用というハード面の助成と併せて、住む人への家賃の一部助成を同時進行で進める必要があると考える。国からの補助が受けられた期間に事業が行われるのではないので建設費と家賃の両方の助成を町単費で行うのは大変ハードルも高いと思う。すでに賃貸住宅家賃助成を行っている自治体を調べると他町村からの移住であることが条件ではあるが、国家公務員や地方公務員は助成の対象外であり、町外から移住し、妹背牛町に新たに定住する人へ、若者の

**企画振興課長** 平成31年度、まずは民間賃貸住宅建設に対する補助を行い、住宅環境、ハード面を整備してから、家賃助成などのソフト事業に着手したい。

**町長** 今年度中にハードができた後の流れを策定していく予定である。ただ、両輪といっても、まずはハード面の整備をした後、夏から来年に向けて準備をしていきたい。

## 平成31年度予算は



佐田 恵治 議員

**佐田議員** 町民の暮らしを守る立場から、何に重点を置き予算編成をし、町民生活に密着した予算、町民の中にはかつてあったさまざまな福祉予算が復活されていない等々意見が寄せられているが、町民の要望をどう予算に反映させようと努力したのか。また、町長選挙時の公約の実現、これは当然予算が伴うものである。北海道新聞に、1年目で15%、2年目で30%という記事があったが、今度の予算で町長は何%の公約の反映をしたのか。



**町長** 防災拠点での公衆無線LANの整備により情報確保を図っていく。次に、妹背牛町で36名のベトナム人が働いているが、日本語の勉強などをサポートする地域おこし協力隊員1名のほか、ふるさと納税の返礼品作業、地域特産品の掘り起こしなどに携わる2名分を予算計上。このほか、3歳児以上の保育料を第1子から半額を助成し、子育て支援に手を打つ。さらに、地域優良賃貸住宅1棟2戸の建設、町内にアパートを建設する事業者に対する定住促進賃貸住宅建設事業助成金など、移住定住対策に力を入れていきたい。また、15%ずつという言葉を使ったが、アパートが基本的に足りなく、そこに注力すること、子育て世代の人たちに住んでもらいながら、子供の数もふやしていきたい。その中で、ハード事業に赴きたいという流れで、15%といったが、一歩ずつということ

で聞いてほしい

## 町政懇談会とその改善は

**佐田議員** 町民の声を行政として直接しつかり聞く場が妹背牛町の場合は町政懇談会である。①昨年度と比べて参加者数はどうであったのか。②各会場で町民の貴重な意見、要望が出されたと思うが、行政で取り入れる、検討する意見や要望はあったのか。③1区の場合は、住民数から場所や時間を検討したほうが良いのではないかと。また、来年度に向けた改善点はどのように考えているのか。

**企画振興課長** ①参加者数は昨年度が全体で229人、今年が184人と45人減少している。人口に対する割合は、昨年度が7.6%、近年では非常に高い参加率で、本年は、天候が非常に悪かったということが影響し、6.2%であった。②先般の町政懇談会での質問、意見、要望は140項目ほどであった。全ての内容を整理し担当課に依頼、すぐに対応できる案件については対応済みで、予算が関係するも

のは平成31年度に計上、また、今後検討した中で実施が可能なものは、令和2年度以降に対応したい。③今年の区長会議の中で全町を対象に町民会館1回の開催で良いという意見をもらった。過去には温泉ペルで入館料を無料にして開催した経緯もあるし、市街地区と農家地区の2日間での開催もした。また、全町を対象として1日限りの開催もしており、いろいろな形で実施したが、逆に参加率が落ちてしまった。現在の区単位での開催で、参加率が戻った経緯もある。来年の実施方法は、既に区ごとに開催する方式が続きたい旨、一部から要望があるので、今年同様の開催を考えている。ただし、数力所から毎年午前中の開催となるため順番変更の要望もあるので、順番は工夫したい。

(他には妹背牛温泉ペル、人口減対策についての質問がありました。)



▲平成30年町政懇談会

## 公認キャラクター制定の考えは



広田 毅 議員

**広田議員** 町振興策としての町公認キャラクター制定について伺う。この件については、平成27年第4回定例会、28年第2回定例会において、2度一般質問をしている。今まで2回質問した提起の趣旨については、町民に共通のキャラクターというツールを持つてもらい、それらを使って広くまちづくりに参加する機会をつくるべきではないかという思いであった。①町公認キャラクター制定について検討したことがあるのか、その経緯について伺う。②町で作成したバナーに描かれている牛をモチーフにした4体のキャラクター、それぞれの名称を含めた誕生の経緯について伺う。

**企画振興課長** 課内では協議を行っており、公認キャラクターが制定されない理由として数点ある。1点目は、用途活用を見通すことができないこと。2点目は、複数のキャラクターが存在し、全て牛がモチーフで、これまでキャラクターに近い存在は、赤トンボやグリーン石狩川マラソン大会キャラクターの牛で、新しく公募してもキャラクターが生まれる可能性は低いため、その活用方法いかににより先細りする可能性が高く、思い切った判断ができていない。3点目は、公認キャラクターの着ぐるみなどを作製する場合、費用が160万円程度と高額で、費用対効果が見込めか疑問がある。4点目は、ゆるキャラに特定するが、ブルムが近年低迷している。以上の点から、公認キャラクターの制定には至っていない。

**広田議員** 国営事業に伴う農地の権利移動も一段落した今日ではあるが、1戸当たりの経営面積も増加し、今後の農地の円滑な流動化が行われていくのかどうか非常に危惧される。農業委員会の業務と農地の現状、そして流動化の見通しについて伺う。①本町の農家戸数、1戸当たりの経営面積、後継者のいる農家戸数、経営者の平均年齢は。②農地利用の最適化の推進に際し、本町にとって中間管理機構、またその事業の果たす役割は。③旧法での建議が法改正により任意での意見書となったが、本町農業委員会での取り扱いは。

## 制度改正後の農業委員会業務

**農業委員会事務局長** ①平成

30年9月1日現在で農家戸数179戸、うち法人が12法人、1戸当たり経営面積は19ヘクタール、後継者のいる農家戸数は21戸で、経営者の平均年齢は62歳である。②本町の農地売買は、農用地等売り渡し事業を活用し、売り手は譲渡所得税の特別控除1,500万円を受け、買い手は5年間の賃貸期間中に農地を買うための体力、資金を蓄えることができ、農地売買の約7割が活用している。本町の中間管理事業活用のメインである。③今年度より意見書を提出しなくとも町の農業施策について農業委員会として協議する場が必要ではないかとの意向が示され、平成30年6月に農業委員協議会で意見書の提出にこだわることなく検討、協議を行っていくこととし、意見書策定委員会を立ち上げた。その後、4回にわたり農地等利用最適化の推進施策をはじめ、農業施策全般について協議し、その結果、本町はさま

ざまな施策に取り組んでいることから、安易に意見書を提出するのではなく、時間をかけて検証する。

**農業委員会会長** ③農業委員会は、地域の抱える問題点に目を向け、地元の声を聞きながら、委員会の中で取り上げた身近な問題の解決や、どういう施策が必要なのか提案していくことが重要な業務の一つである。そのためには意見書を提出し、農業者の声を届けることが必要と思っている。また、意見書提出まで届かない問題点も、委員会の中で協議した内容をどこかの場面で伝えていくことも農業委員会の大切な役割と考えている。その結果、町と農業者が同じ方向を向き本町農業を守っていくことを期待する。



## 行政サービスと窓口対応



鈴木 正彦 議員

**鈴木議員** 行政サービス、特に各課の窓口対応について伺う。以前に町長が役場の敷居が高いと話していたが、町民がどうしてそう感じるのか考える必要があるのでは。窓口対応で相談者に、うちではないということ、違う課を紹介することがあり、たらい回しという表現が正しくはないのかもしれないが、相談者がどんな感情を持ったのかと思う。例えば企画振興課の窓口で定住の相談の際、ある程度相談が終わわり、空き家の紹介等々、こんな選択もあるという中で、では町営住宅はどうかと相談が変わったが、その相談は建設課と、建設課窓口を案内された。例を挙げたが相談者の心情を考えて、その対応で本当に良いのか伺う。



**総務課長** 昨年4月からコンシェルジュ的な窓口も含めた中で、住民課住民グループに総合窓口として表示している。この窓口において、住民グループの担当職員が、それぞれの課等に案内、来客への対応をサービスの一環として行っている。また、昨年の職員研修でも窓口対応について行っているが、新年度においても改めて窓口対応の研修を行い、来客に不快感を与えないよう注意しながら対応していきたい。

## 『議会傍聴』の受付方法が変わりました

これまでは議場入口にて「傍聴人名簿」に記入し、議会の傍聴をしておりましたが、個人情報保護の観点から、これからは一人ずつ「傍聴人受付票」に住所・氏名・年齢を記入し、受付箱に投函の上、傍聴していただくよう変更となりました。お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。



▲傍聴席のカウンターに設置してあります

傍聴人受付票

年 月 日

住 所	
氏 名	
年 齢	
会 員 名	年第 回 岡林町議会 定例会・臨時会

※ご記入いただいた個人情報に関しては、他の目的は一切利用しません。  
※記入後、傍聴人受付箱に投函してください。